



こまくさ

平成30年
1月23日(火)
No.44

《教育目標》 ~夢に向かって やさしく! かしく! たくましく!~

引き続き、読書感想文をお届けします。T.さんとM.さんの感想文です。12月の秋田県学習状況調査のアンケートをまとめたところ、本校には「読書」に関わる部分に課題があるようです。県全体の結果はまだ公表されていませんので、他校と比較するなど詳しい事はわかりませんが、過去の結果などと比較すると改善しなければならない部分が多いようです。アンケート結果はまた後日お知らせします。私たちがなぜ読書を勧め、何を育てたいのかお知らせします。

「朝の読書」では、感想文は求めません。それは、まず本好きになるように、ただただ読みたい本を読むという活動を行います。学校全体が同じ時間帯に本を読むと、そこには独特の雰囲気生まれます。それが続くと、本の嫌いな子どもも「読む」という活動に慣れてきます。徐々に活字に慣れ、そのうちに自分はどのようなジャンルが好きで、これだったら読んでもいいかなというものがわかってきます。また、副次的にですが、言葉や書かれている事を覚えたり本を大切に扱ったりするようになります。次の段階は、国語の学習で感想文を書いてみるという活動になります。感想文を書くことは、その本の内容と自分の生活と比較しながら、よりよい生き方を探ったり、自分の考え方を整理したりする時間になります。昨日のりあさんの感想文は、動物の飼い方まで考えを高めています。りあさんは、ペットの飼い方問題などの課題に対して、自分の考えをまとめていく機会になったと思います。一心さんと丈偉さんは、戦争に対して考えを深めたことと思います。戦争は怖いものだ、2度と起こさないようにしなければならないという考えに至っています。これは、日本の教育の根本理念にまで関わってきます。保護者の皆様方をお願いしたいのは、ご家庭でもぜひお子さんに読書の機会をつくってあげてほしいということです。読書嫌いでは、伸ばせる力も伸ばせなくなります。どうぞ、3名の感想文をお子さんにも読んであげてください。

また、健全育成の標語コンクールの優秀作品をお届けします。

母に話していきま。僕がこの物語を選んだ理由は、図書館へ行った時に本の表紙を見て、どんな内容の本なんだろうと気になったので読むことにしました。この物語は、戦争の話です。ナガサキの原爆で亡くなった浩二が、母に会いたいと思いついて、三年目の命日に母に会いに行きます。毎晩オーケストラの指揮者になりたかったとか小説を書きたかったという夢や町子という好きな人への気持ちを母に話していきま。僕が一番心に残ったのは、浩二の好きな町子のこと、一回浩二が消えてしまったところで、町子に浩二の事を話した内容。浩二が聞いて、浩二の目から涙があふれ、ナガサキはその涙で、大雨になった所です。なぜ心に残ったかという、浩二は町子と結婚する予定で、母にどういふ結婚式にするか話してたけれども、母は町子に頼って生きていくのはいかんと思っ町子に他の人と幸せになっ



四年 T. 僕がこの物語を選んだ理由は、

話が進んで行くとお母さんの身体が弱くなっていき、浩二と一緒に天国へ行ってしまいました。その時お母さんが言った「浩二、天国に戦争はないか?」という言葉が気になりました。ナガサキの原爆で七万人の人が亡くなってしまい、浩二を亡くしてしまった悲しみをまた味わいたくないからそう聞いたのだと思います。浩二は、「なかと、そんなもん」と言ったのを聞いて、お母さんはようやく安心できたと思います。浩二と母は、同じ世界で生活するため、星空に向かいました。母の葬式に浩二と母も一緒に参列し、そこには町子と彼が並んで座っているのを浩二が見て、ちよっぴり悲しい気持ちになって天国へ向かいました。戦争は決して良い事ではないと思いましたが、いつ戦争が起きるかかわらないので怖いです。この本のように昔、日本で戦争

しいと話したことを浩二が知って大泣きをしてしまったのです。人を好きになるとこういう気持ちになることがあるんだなと思いました。もし僕が浩二だったら同じように大泣きしてしまふのかなどと考えてしまいました。話が進んで行くとお母さんの身体が弱くなっていき、浩二と一緒に天国へ行ってしまいました。その時お母さんが言った「浩二、天国に戦争はないか?」という言葉が気になりました。ナガサキの原爆で七万人の人が亡くなってしまい、浩二を亡くしてしまった悲しみをまた味わいたくないからそう聞いたのだと思います。浩二は、「なかと、そんなもん」と言ったのを聞いて、お母さんはようやく安心できたと思います。浩二と母は、同じ世界で生活するため、星空に向かいました。母の葬式に浩二と母も一緒に参列し、そこには町子と彼が並んで座っているのを浩二が見て、ちよっぴり悲しい気持ちになって天国へ向かいました。戦争は決して良い事ではないと思いましたが、いつ戦争が起きるかかわらないので怖いです。この本のように昔、日本で戦争

がありました。多くの犠牲者が出て悲しい思いをする戦争が起こらないようにするのは、世界中の人間が仲良くなれば戦争が起こらないと思います。この本を読んで戦争は、悲しい事だとみんなが考えれば、この物語のようなことは無くなるのではないかと僕は思います。

気になって読んだ物語だったけど色んな人に読んでもらい、戦争の事をもっと考えてもらって幸せな世界になればいいなと思います。



四年

M.

僕がこの本を選んだのは、タイトルにひ

かれた事がきっかけでした。内容は、ハオの少年と青いオウムとの物語です。戦争中に、少年とオウムが助け合って過ごす日々のお話です。

青いオウムにはある口癖がありました。「ダイジョウブ」という言葉です。戦争でお母さんを亡くした少年は心に大きな穴があき、声が出なくなってしまうのです。そんな時でもオウムの口癖の「ダイジョウブ」という一言で勇

気づけられるシーンがあります。悲しみに沈んでいる少年にとって、その声は、天国のお母さんの声のように思えたかもしれません。一生懸命励まし続けるオウムの優しさに感動しました。

ある日少年は、元気の無いオウムのために好物のひまわりの種を盗みました。盗む事は絶対にいけないと分かっているのに、悪い事をしてでも、お腹を空かせた青いオウムを助けたい！という強い気持ちがとても伝わってきました。

もしも戦争が起こっていなければ、お母さんも生きていて楽しく暮らしていたし、声を失うこともなかったはずで、盗みなんかしなくても良かったはず

です。この物語を読んで、僕が一番感じた事は、戦争は絶対にしてはいけないということ。理由は、罪の無い人々や動物の命、草木などの自然まで壊してしまうからです。昔は戦争によって多くの国や多くの人々がボロボロに傷ついていたと思います。

今も戦争をしている国がまだあります。同じ失敗を起こさないためには、全ての人々が優しい心や勇気を持つ事がとても大切です。そして、死んで忘れられた人間の心に自分の心を置き換えてみれば、

戦争を起こす人々も少しずつ減って行くと僕は思います。

八月十五日は終戦記念日だということを知りました。僕の誕生日が八月十四日なので、戦争の事をずっと知りたくまりました。これから色々な本を読んだり大人の人に話を聞いたりして勉強をしたいと思います。

この本の作者は「火垂るの墓」の作者である野坂昭如さんです。終戦記念日の近くになると、毎年テレビで放送されますが、僕はまだ観た事がありません。

僕はまだ観た事がありません。なぜなら、あまりにも悲しすぎて泣いてしまうと母に聞いたからです。でも戦争の本でこの感想文を書いたから、今年は「火垂るの墓」がどんな内容の作品なのかぜひ観ようと思います。

僕たちは今、好きな食べ物を食べたいおもちゃも買ってもらう事ができます。それが当たり前のように思っていたけど、今豊かに暮らしているのは、貧しかった昔の人達のすごい頑張りがあったからだを知り、感謝しなければいけないと思いました。もう二度と戦争が起きませんように…。

入賞作品は2点で、6年生の

M. さん、4年生のM. さんの2名です。二人の作品は、2月の紙風船あげ

で、紙風船に記載されたり配布するティッシュに記載されたりするそうです。おめでとうございます。また、応募した人全員に参加賞のファイルをいただきましたので持たせます。

非行防止・健全育成標語

《優良賞》

4年 M. (写真左)

ひとことで つながる えがお だいじだよ

6年 M. (写真右)

たしかめよう みんながみてる ネットだよ

